

# REPORT.1

## 変わっていく写真制作技術

デジタルカメラによる写真制作が活発になり、カメラを持って活動する人が増えている。ライカカメラは、フィルムカメラとデジタルカメラの両方に製品があり、ユーザーは選んで片方を使用、あるいは両方を使い分けている。長い歴史を経てきたフィルムカメラの場合、自家処理（写真店やラボではなく自分の手）によって写真制作をする人もいる。

これから年4回発行予定のレポートでは、フィルムカメラシステム（※1）、及びデジタルカメラシステム（※2）を使って写真制作をする方法を解説する。多様化する写真制作技術において、ご自身に合った方法を選択していただければと思う。

1回目では、まず現在の写真制作の概要を述べる。



※1 フィルムカメラにおける撮影～現像～プリントまでの工程や仕組み

※2 デジタルカメラにおける撮影～現像～プリントまでの工程や仕組み

## A 変わっていく写真制作技術

1839年に始まった写真（ダゲレオタイプ銀板写真）は、フィルムを使う黒白写真・カラー写真へと発展し、この方法としてはほぼ完成かというところまで発達して現在に至った（銀塩写真ゼラチンシルバークローム）。

この間、1980年代から本格化したデジタルカメラシステムの開発は、1990年代に入って急速に進み、2000年代に入るとデジタル

カメラが普及し、2005年を過ぎてからは高画質化していき、今日に至った。今日のデジタルカメラ・デジタルプリント技術は相当すばらしいものになっている。

販売されるカメラはデジタルカメラが多くなり、フィルムカメラも販売はされているが、新製品の発売は少なくなった。現在、デジタルカメラは、アマチュアの記念写真的な撮影から、産業的・科学的な目的、商業的な目的の撮影のほとんどの場合に使われている。しかし、作品制作にはデジタルカメラとともに、今後もフィルムカメラが使われていくだろう。作品制作の面では、両者をうまく使って幅広い制作ができるようになっており、これが今後も続いていく。プリント工程にも変化が起きた。フィルム画像（ネガ、ポジ）を引伸機により印画紙へ露光し、現像処理してプリントをつくる作品制作のほか、デジタルカメラの普及に伴い、進歩したデジタルプリンタを使ったインクプリントによる作品制作が普及してきた。

現在のところ、フィルムカメラもしくはデジタルカメラでの撮影後、多くのプリントは印画紙に露光して現像する方法がラボ（現像からプリントまでを行う設備を持つ施設）によって行われており、写真店の店頭、あるいは写真店を通じてラボに依頼され、制作されている。多く撮影されるカラー写真はラボによって制作されるが、黒白写真（少なくなっている）は、ラボのほか自家処理が行われ、特に作品制作は自分の手ですべての処理を行うユーザーもいる。また、黒白写真の作品制作のために技術を磨き、ユーザーからの直接の注文を受けているラボもある。

従来からの方法に加え、フィルムカメラにおいて現像処理してつくったフィルム画像をデジタルデータ化し、デジタルプリンタを使ってインクプリントする作品制作が個人レベル（写真家・写真愛好家など）や産業的な分野で起きている。今は両者が混在し始めている状況である。

C O N T E N T S

## REPORT.1

### 変わっていく写真制作技術

- 変わっていく写真制作技術 .....1
- 黒白写真による作品制作 .....2
- カラー写真による作品制作 .....3
- 現在、暗室で作品制作（銀塩写真ゼラチンシルバークローム）している、またはこれから始めようと思っている方へ .....4
- デジタルプリントには暗室はいらない .....4

LBCオリジナルグッズ